

## 社協の取り組み

三月二十三日、味の素スタジアム内の避難所に「被災者支援ボランティアセンター」を開所。調布社協に関係する企業のネットワークと、地域の団体、ボランティアの協力のもと、ピーク時には、百八十人を超える被災者の避難生活の支援を行いました。約二千九百名のボランティア仮登録があり、その経過はNHKで放映され注目を集めました。自治会の皆様には、炊き出しや義援金の取りまとめなどにご協力を戴き、誠に感謝申し上げます。

避難所は、五月二十二日に閉鎖となり、被災者の皆さんは各地域で新しい生活をスタートしています。今後は、地域で孤立することのないよう次のサイトで支援してまいりますので、是非ご案内下さい。

調布市被災者支援ボランティアセンター  
<http://chofu.vc>



調布市自治会連合協議会  
会長 大久保 正二  
**ぬくもりの心が、熱き心に！**

三月十一日午後、未曾有の大震災が日本を襲った。M9の大地震と大津波は、東日本沿岸部全てを呑み込み、破壊し尽くしました。この惨状は、全国民はもとより全世界の人々にリアルタイムで報道され、茫然自失した人々の姿が克明に報道されました。

その直後に開かれた私共役員会で、この非常事態に「被災者を何とか救援したい！」との熱い議論が交わされ、救援募金を早急に行う事になりました。急遽、加盟全自治会長さん宛に趣意書を送り、四月末日には募金が集まりました。約千三百万円と言う驚異的な数字は、私達が予測した金額をはるかに上回り、協力を戴いた各自治会の役員、会員の皆様の心のやさしさと、温かさに感動し、私は目頭を熱くしました。

「ありがとうございます」と言うだけでは言い尽くせません。心から、感謝申し上げます。

義援金 ¥13,033,400 104自治会

## 温かい豚汁が教えてくれた早急な防災対策への取り組み

飛田給自治会



東日本大震災の発生から早くも四ヶ月以上の月日が過ぎていきます。三月十一日は決して忘れることの出来ない震災として、日本史に大きく刻まれることでしょう。私たちは、地震にはあまり実感のない中で生活して来ましたが、東日本大震災を目で見、体で感じて、防災対策の重要性を、改めて痛感しました。

私たち飛田給自治会では、東京都が福島第二原発事故による避難民の方々を味の素スタジアムへの受け入れを決めた事を受け、「自治会として手助けをしよう！」と役員より声が上ががり、三月二十一日に「炊き出し」を実施しました。

自治会員の協力を得て前日夕方より準備し「着の身着のまま」で避難された方々に、少しでも温かい食べ物をお出しし、心の不安を少しでも癒して戴くことが出来ればと、「豚汁・ごはん」をお出ししました。味の素スタジアムでの炊き出しは、飛田給自治会が初めてで不慣れなこともありましたが、「久しぶりに温かいものを食べた」と喜ばれ、何か元気をお互いに戴いた、豚汁の炊き出しの場になりました。

避難された方々の話を聞けば聞く程、地震・津波の恐ろしさ、自然の力の大きさが良く分かりました。一日でも早く地域の状況をしっかり調査・研究し、自治会を中心として実情に応じた対策を模索しながら、「安全・安心の町作り、お互い助け合う町の構築」に取り組みたいと思います。



転ばぬ先の杖！





## 定期総会、全案件承認される！

六月十八日、東日本大震災の被災者の方への黙祷から、定期総会が開催されました。避難所生活の大変さが、想像されず。

大久保会長から、東日本大震災への義援金が会員自治会のご尽力で予想を大幅に上回る額に達した事に感謝すると共に、「市民大集会」が成功裏に終了した事が報告されました。



五月十五日「味スタ感謝祭」は、好天に恵まれ大勢の方が来場されました。多くの方は、スタジアム内外に出店したフリーマーケットが目を当てのようで、大変な賑わいでした。当会が出店した二階正面脇テントでの生ビール販売も、並んで出店している団体と同様、開会と同時に客足が途絶えることなく、多くの方にお立ち寄り戴き賑やかな一時でした。

## 「味スタ感謝祭」に参加！ 企画・事業推進委員会

市民大集会の内容は、前半・後半に分け、前半を当会の日頃の活動等をPRする機会とし、会長挨拶と役員の紹介、来賓挨拶と来賓紹介を致しました。後半は、深大寺住職による講演と、能楽師山中迥晶氏による能楽鑑賞と致しました。

深大寺住職の張堂完俊氏による講演では、「人と人との縁」と題して深大寺を中心とした歴史や、地域社会との関わり等ユーモアを交えて話され、客席の方々も一緒に頷くなど興味深い講演でした。

続いて、能楽師山中迥晶氏による「能のある空間」、「知って、見て楽しむ能楽」と題して、能に対する解説があり、続いて同氏が指導する深大寺地区を中心とした幼稚園児から小学生の演ずる「新能」が披露



## 「市民大集会」千百人が集う 企画・事業推進委員会

露されました。子供たちが、和装で舞う愛らしさに会場は大拍手でした。

演技の合間には、能に関するレクチャーもあり、興味・関心を深める事が出来ました。最後は、山中迥晶氏による正装での能楽「羽衣」を舞って戴きました。能面を付けて、純白の衣装で舞う姿は、物語の羽衣を連想させる素晴らしい舞で、会場を魅了しました。

この度、市民千百人が集う大集会を開催することが、出来ました。一月の厳寒期の開催でしたが、ご出席戴きました市民の方々には改めてお礼を申し上げますと共に、今後のご支援をお願いし、報告と致します。



